保健福祉課職員のみなさん（筆者前列の右から2人目）

保健師ルポ

自助・共助・互助の基盤を強化し、住民に寄り添い支援する

宇検村　保健福祉課 保健師　川畑　美由紀

宇検村の紹介

私たちの暮らす宇検村は、奄美大島の南西部に位置し、年間を通じて温暖な気候です。令和3年7月末現在で人口1681人、世帯数960世帯、年間出生数が15人前後、高齢化率44・2％の小さな村です。

村内にはコンビニエンスストアや大きなスーパーなどはありませんが、今年7月には世界自然遺産にも登録された湯湾岳があり、大自然の豊かさや人の温かさが魅力的なところです。

地域産業としては、黒糖焼酎「れんと」が有名な奄美大島開運酒造や、やけうち湾のおだやかな入り江を生かしたマグロ養殖業が主要産業となっており、雇用の多くを占めています。

世界自然遺産に登録された湯湾岳

保健福祉課の取り組み

保健福祉課は、地域包括支援センター・子育て包括支援センターが同じフロアにあり、また外部局の村内診療所と保育所まで合わせると管轄は大所帯となります。

役場庁舎には、課長・課長補佐2名（1名は保健師）・係長、職員が5名と、会計年度任用職員9名の職員がいます。

会計年度任用職員は看護師3名、管理栄養士1名、介護支援専門員2名、児童クラブ支援員2名でゆりかごから墓場まで幅広く支援しています。

また、今年2月から地域おこし協力隊として言語聴覚士が加わり、専門性を生かした母子から高齢者への支援を通して地域づくりへのアプローチを行っています。

保健師は3名で、1名は課長補佐兼子育て支援包括支援センター長兼地域包括支援センター長で介護予防事業・母子保健も現役で担当し相談事業や訪問までしているベテラン課長補佐です。

1名は男性保健師で、現在村の社会福祉協議会に派遣、地域共生社会の実現に向けた取り組みを主に担当しています。空き家を活用し、島の縁側「善時庵」をオープンし、子どもから障害者・高齢者まで気軽に集える居場所づ

くりをスタートさせたり、秘密のウケンミンSHOW！というテーマで村の実態を調査し、YouTube配信で回答結果をお知らせするユニークな取り組みも行っています。

元山公知村長(左)、泉保健福祉課長補佐(中央)

残る保健師が、主に国民健康保険保険事業・後期高齢者医療保険事業・成人関係や障害などの保健事業を担当しています。現在は後期高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けた調整を行い、令和4年度からの実施に向けて取り組んでいます。今年度からスタートした「うけん健者（けんむん）大学」は、心も身体も健康な者＝ケンムンを目指し、毎回テーマごとに健康に関する講座を受講する事業です。コロナ禍で感染症対策を講じながら実施し、多くの参加者が楽しんで学ばれています。参加者には地元で利用できる健者（ケンムン）券という地域商品券の授与もあるため、継続参加が多い一因となっています。

※ケンムンとは奄美大島に古くから伝わる妖怪のことです。

心も身体も健康な者=ケンムンを目指すうけん健者(けんむん)大学

人口も少ないため、3人の保健師が会計年度任用職員の管理栄養士・看護師・介護支援専門員などとチームを組んで村全体の健康寿命の延伸・住み慣れた地域で最期までいきいきと暮らすことを目標に日々取り組んでいるところです。

専門職連絡会議を2か月に1回開催し、母子・成人・介護などの課題や事業について関係機関との協議や個別ケースの情報共有を行い、地域での課題解決に取り組んでいます。庁内の専門職（保健師・看護師・管理栄養士・介護支援専門員）に加え、地域おこし協力隊の言語聴覚士や宇検診療所の看護師も参加し情報共有・ケース進捗状況の確認を行っています。今年で4年目となり、今年から関係機関との協議（消防・社会福祉協議会等）も取り入れて実施しています。

保健師活動12年を経て思うこと

私が宇検村で保健師活動をはじめて約12年が経過しました。入庁した平成21年の村の人口は2000人を超えていましたが、この12年でおよそ400人も減少しています。計画で見込んでいるより、はるかに大きい減少率です。それに伴い高齢化率も35％から44％と約10％も増加しています。

宇検村では「子は宝」、「結の心」の精神で、子を地域全体で大事に育てるという風習も残りつつ、Iターン・Uターン者も増える中で、地域でちょっとしたことで頼れる人がいないという新たな地域課題も出てきています。

また、障害がある方で独居の方や両親が高齢者で支援が必要な方も増えつつあり、問題が複合化して一つの機関だけでは支援困難なケースも多くなっています。

そういった浮き彫りになった課題に対して現在、重層的支援体制整備事業を通して多機関協働で寄り添える伴走型支援を目指す取り組みを実施しようと職員での協議・勉強会をすすめている最中です。

利用できる社会資源が決して多いとは言えない宇検村ですが、昔からある自助・共助・互助の基盤を強化しながら支え合いについて再度見直していく必要があるのかもしれません。

新型コロナウイルス感染症の影響で、住民もスタッフも先の見えない情勢に疲労してるとは思いますが、少しでも安心して過ごせるように日々業務に邁進してまいりたいと思います。最後になりましたが、保健師として、村の一住民として、この村で最期まで住民へ寄り添って支援できることを目標に今後も取り組んでいきたいと思います。

子育て支援キラキラクラスの様子

児童クラブクッキングの様子